



インド小売市場レポート

Report on India's Retail Market

SAMPLE

※無料版はサマリーと目次のみとなります。
本編は有料版をご購入ください。

新興国で最も参入優先度の高いインド小売市場を捉える

世界小売業開発指数(GRDI: Global Retail Development Index)によると、インドの小売市場はBRICs諸国の中でも中国やその他新興国を抑え、最も参入優先度が高い市場として有望視されています。主な要因として、ここ数年でのインド小売業FDI(外資直接投資)規制緩和の可能性、中間層急増と消費支出の拡大、それに伴う急速な小売市場の拡大があります。現在、約2億人と言われるインドの中間層は今後5億人以上に増加し、市場規模は約30兆円から約60兆以上に拡大することが予測されています。このように有望な市場でありながら、インド国内での日本製品は、自動車や電化製品を除いてほとんど普及していないのが現状です。

その要因は、インドの独特な小売体系が参入の難易度を高めていることにあります。インド小売市場の90%以上が伝統的な小売業である個人零細商店(パパママショップ)であり、その流通・物流体系は非常に複雑で、この流通チャネルへの参入が外資系企業の大きな課題となっています。一方で、組織化された小売業(スーパーマーケット、デパート、ショッピングモール等)は、インド小売市場全体のうちわずか5%程度を占めるに留まっています。これは新興国市場の中でもかなり低い数値といえます。しかし今後、約10年で組織的な小売業が全体の約40%以上に拡大することが予測されています。

今後のインド小売市場の成長を日本企業の皆様に販路開拓・拡大の大きな機会として捉えていただくため、この度、弊社の専門家集団が市場調査レポートとしてまとめました。本レポートは、小売市場の概要から規模・構造、業態分類、産業別分析、成長要因、参入成功のポイント、主要小売業の企業情報など様々な視点でインド小売市場について幅広く把握できる内容になっています。

人種、言語、宗教など多様かつ複雑な国家であり、情報収集が容易でないインド小売市場について、本レポートを通じて理解を深めていただき、皆様のインド進出の一助となれば幸いです。

レポート監修 : 松野 小百合
エルエス・パートナーズ株式会社 代表取締役

2012年3月1日

エグゼクティブサマリー

インド経済

インド経済は、2009-10年に1兆3,700億ドル規模であり、現在、世界で急成長を遂げている経済の1つである。経済成長の主な要因には、大規模かつ急速に成長する中間層が牽引する消費拡大、製造業への大規模な投資、インフラへの巨大投資、海外からの着実な資本流入がある。

市場の主なトレンドには、急速な都市化、若年層の多い人口構成、従属人口指数の低下、核家族の増加、女性労働人口の増加などがある。これらの要因により、従来の必要消費支出から、映画・観劇、外食、娯楽、携帯電話、観光旅行などの裁量消費支出へと消費の内容に変化が生じている。

インド小売市場

2007-2012年度の組織化された小売業に関しては、年平均成長率(CAGR: Compound Average Growth Rate)43.7%の成長がみられた。インドの小売市場は現在推定4,350億ドル規模であり、うち4,140億ドル(約95%)が伝統的な小売業、210億ドル(約5%)が組織化された小売業である。組織化された小売市場は、今後25%の成長が予測されている。インド小売市場は、全国に1,000万店舗以上存在する個人零細商店(パパママショップ)が中心になっている。しかし、インドにおける小売業の成長潜在性を認識し、Reliance、Adiya Birla Group、Essar、Bharti、Tata Groupなど、多数の企業グループが小売業に参入している。さらにWal-Mart、Tescoなどの国際的小売業者が小売業部門に、巨額の投資を行っている。消費支出の出来る限り多くの割合をターゲットとする戦略から、大手小売業者は複数の販売形式を活用して販売を行っている。

インド市場概況

はじめに

インド経済は今後5年間の率平均8%以上の成長が予測され、中国に続き世界で2番目に急成長を遂げている経済である。歴代の政府によって実施されてきた経済改革の結果、経済の各部門にわたり、投資および成長の拡大に至っている。インド経済はこれまで強固なファンダメンタルおよび政府の適切な後押しにより強い回復力を示してきたが、将来も経済成長を維持するためには、同様の後押しが必要である。インド政府によると、インド経済の規模は、2009-10財政年度に1兆3,700億ドルであった。GDP成長率(基準年2004-05年)は2009-10年に年7.4%で、今後5年間は年平均8~10%を維持すると予測されている。

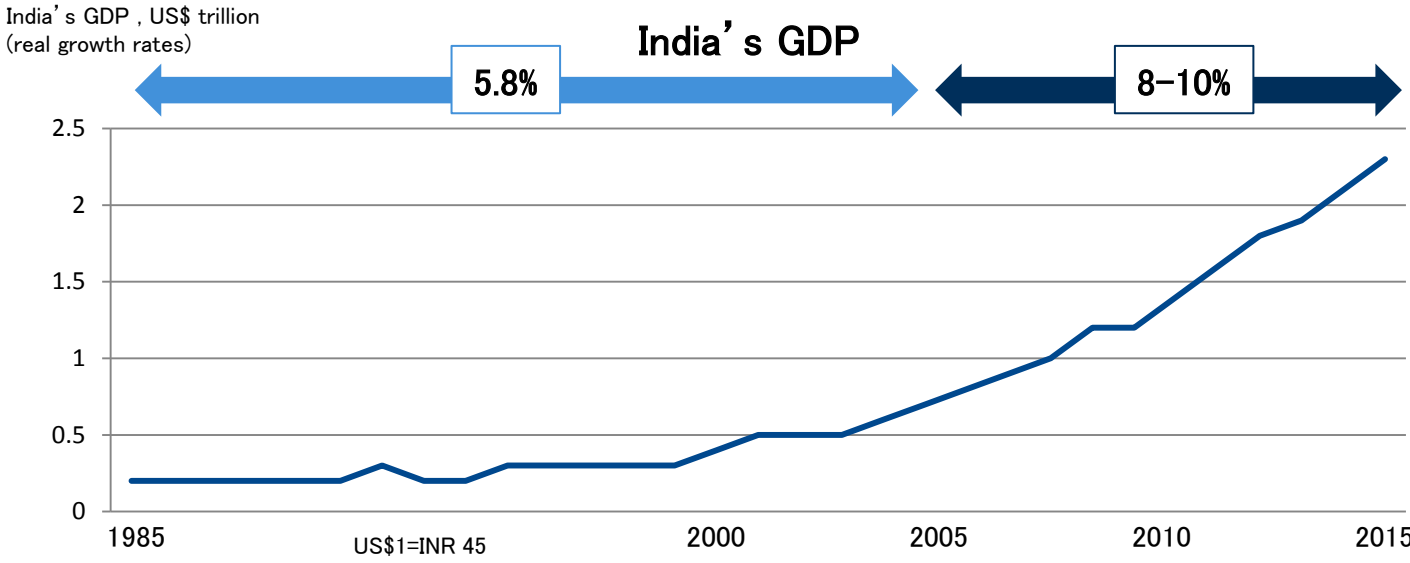


図: インド経済規模の変遷
出所: Economic Survey of India, Ministry of Finance, India

2000年以降、インドの経済成長率は年平均7%前後であり、それ以前の20年間の年平均5.8%を大きく上回っている。こうした経済状況の改善は、経済を大幅に開放し投資を促進する結果となった一連の経済改革を反映している。インドの経済は、日本、韓国、中国などの国々とは異なり、少なくとも今世紀半ばまでは安定成長を続けることが予測されている。

Index

【1】インド小売市場概要	- 拡大する市場 - 優先順位の高い市場
【2】小売業の分類	- 3段階分類
【3】小売業の形態	- 小売業の形態 スーパー／ハイパーマーケット／デパート／ ラグジュアリー／インターネット
【4】小売業の分析:産業別	- 伝統的な小売業と組織化された小売業 食料／雑貨／衣料品・織物／電化製品／美容商品・宝飾／ 家具・インテリア／健康・医薬品
【5】小売業の成長要因	- 4大要因 所得の増加／若者増加と核家族化／ 消費者のブランド志向／簡易な支払方法の増加
【6】小売業における成功の鍵	- 5フォース分析 - 小売業者が成功するために必要な4要因 - 消費財メーカーが成功するために必要な4ポイント
【7】主要小売業者プロフィール	- 店舗データ - 財務・株主データ

【1】インド小売市場概要

- インド小売市場概観
- 拡大する市場
- 優先順位の高い市場
- インド消費者の概観
- 消費カテゴリー増加の推移
- 各製品カテゴリーの規模と成長率

インド小売市場レポート

Report on India's Retail Market



監修：松野 小百合(まつの さゆり) エルエス・パートナーズ株式会社 代表取締役
本レポートでは、世界中から注目されるインド小売業界の最新動向を、インドに子会社を持つ弊社の専門家集団により執筆されました。複雑で情報収集が容易でないインド市場の小売業界について、本レポートを通じて理解を深めることで、皆様のインド進出の一助となれば幸いです。

松野 小百合(まつの さゆり) 経歴

九州大学大学院を卒業後、国連国際機関、ドイツ政府系研究機関にて、途上国の平和構築やコミュニティ開発等の調査やコンサルティング業務に従事。帰国後は、外資コンサルティングファームにて組織人事コンサルティング、マーケット調査業務を経験。2009年9月、エルエス・パートナーズ株式会社を設立。代表取締役に就任。

【出典一覧】

- ・ CRISIL Research
 - ・ Technopark
 - ・ Technopak Advisers Pvt. Ltd.
 - ・ CSO, NSSO
 - ・ Euromonitor International
 - ・ JETRO「4都市商品テスト販売調査結果報告」
 - ・ Financial Chronicle
 - ・ Ministry of Finance, India
 - ・ NCAER
- (順不同)

【編集・発売】

エルエス・パートナーズ株式会社
〒160-0004 新宿区四谷1-18 オオノヤビル6階
TEL:03-5919-1163 FAX:03-6273-1588

■主要事業■

海外進出コンサルティング事業
海外市場調査・マーケティング事業
ビジネス・マッチング事業

■関連会社■

Spectrum LS Management Consultancy Private Limited (India)
Spectrum LS Trading Private Limited (India)
Address : Solitaire Corporate Park, Bldg no2. office no 262, 6th floor,
Chakala, Andheri (e) , Mumbai:400 093